ソーシャル・キャピタルとこれからの社会資本整備

総合技術政策研究センター
建設経済研究室　主任研究官 鈴木　学　交流研究員 中島　敬介

１．ソーシャル・キャピタルとは

ソーシャル・キャピタルとは、社会における人間関係の強さ・深さを、社会のもつ「資本」の一つとする考え方である。定まった定義はないが、アメリカの政治学者R・パットナムによる「協調的行動を容易にすることにより社会の効率を改善しうるような、信頼、規範、ネットワークといった社会的組織の特徴」という定義が有名である。

表－１　ソーシャル・キャピタルの要素

信頼	見知らぬ人を信頼できるかという、より一般的な信頼
規範	様々な規範の中で、互酬性[i]の規範を特に重視
ネットワーク	顔を見知っている、互いに挨拶をしているといったような弱い結び付き

表－２　ソーシャル・キャピタルの種類

	結束型	橋渡し型
結び付き	強い	弱い
特徴	排他的	包含的
関係	同質－結束	異質－つなぐ
方向性	共益目的	公益目的

その効用としては、経済活動効率性や地域活力の向上などが指摘されており、これからの地域社会において、重要な概念として注目されている。

２．社会の変化とソーシャル・キャピタル

社会が未成熟な（市場による生活サービスの供給が少ない）ころは、農村ではユイ・コウ、都市部では隣組といった制度や組織を通じた地域社会の構成員との交流や相互依存の関係（いわゆる共助）が豊かであった。が、市場による生活サービスの発達は社会的関係によって提供されていた機能を徐々に代替し、共助の関係を解消する方向に働いてきた。また、市場だけでなく、官による公共サービスも、それが過剰である場合に、共助の関係を損なってきた面があることも否定できない。

今後は少子化・高齢化が一層進展する。地域での人口減、社会保障負担の増加による公共サービス水準の低下、災害時に公共・市場サービスの供給が途絶えたとき、といったことに対し、かつてのような地域自らの対応力が必要になる。それには、人と人との繋がりやそれが生み出す信頼、つまりソーシャル・キャピタルの蓄積がかつて以上に重要な役割を果たしていくであろう。

３．社会資本整備とソーシャル・キャピタル

戦後の社会資本整備により、災害に対する安全性、経済活動の効率性、生活の利便性・快適性は飛躍的に向上してきた。今後社会や地域の構造が変化していく中、これからも状況に対応した社会資本の整備や質的な充実が求められるが、往々にして、社会資本整備はソーシャル・キャピタルを直接的に損なってしまう場合がある一方、社会資本整備がソーシャル・キャピタルを直接的に豊かにすることはないと言われている。

だが、今後の社会資本整備、とりわけ地域の生活に密接に関わるものは、ソーシャル・キャピタルの質・量を豊かにするという観点が不可欠である。そのため、社会資本整備がソーシャル・キャピタルに対して正負両面においてどのような影響を及ぼしているか、その波及過程と影響の大きさについて、事例の分析を通じて今後検討していく予定である。また、地域の構成員が自らの地域のソーシャル・キャピタルの質・量を継続的に把握することを通じて地域の活力・機能の維持向上を図ることができるよう、地域構成員自身でできる計量・分析手法の開発にも取り組んでいく。

【参考文献】

宮川公男・大守隆：ソーシャル・キャピタル 現代社会のガバナンスの基礎, 2004

[i] 個人や集団間で生じる返礼の相互行為のこと。